



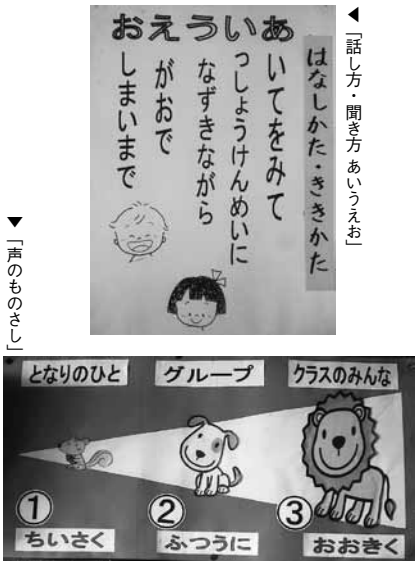
1 「どろどろ遊び」を通して学ぶ

使用教材：「ものの名まえ」「おみせやさんごっこをしよう」（二年下）

1 はじめに

一年生の子どもたちは、「ごっこあそび」が大好きである。本教材も興味関心を示すとてもよい教材である。大喜びで主体的に活動に取り組むだろう。そこで、留意しておかなければならないことは、学習のめあてをしっかりとめさせ、何のための学習活動なのかということを常に教師が意識しておくことである。

本校では、学習の基本的なきまりと「話



し方・聞き方 あいうえお「声のものさし」「発表のしかた」等、年間を通して指導している。ここでは、このような学習の基本を改めて意識させたいので、楽しく生き生きとした単元になるようにしたい。

「ものの名まえ」で、上位語と下位語を知ること、売る物の概念をとらえる。それを生かして、「おみせやさんごっこをしよう」では、お店やさんの準備段階と本番での「聞く・話す」活動がある。実の場で「話すこと・聞くこと」の学習を促すことのできる教材である。ロールプレイ（役割演技）を取り入れることで表現力を豊かにするなど、工夫次第で尋ねたり応答したりするという言語活動を活発に行うことができる。

2 指導計画（年十一時間）

ここでの学習は、「ものの名まえ」と「おみせやさんごっこをしよう」の二教材を組み合わせて行う。

第一次

ものの名前について知ろう（三時間）

教材文を読み、上位語と下位語について知る。

第二次

「おみせやさんごっこ」の準備をしよう（六時間）

自分たちがやりたい店や、おみせやさんごっこに必要なものについて話し合い、準備をする。

第三次

「おみせやさんごっこ」をしよう（二時間）

・売る人と買う人の上手な話し方・聞き方について話し合っって練習する。
・おみせやさんごっこをする。

3 指導の実際

第三次 第十一時

めあてをもって「おみせやさんごっこ」をする。

4 おわりに

学習活動が熟中してくると「りんごください」「はい、どうぞ。百円です」のような会話だけで終わってしまいがちであるが、「りんごを一つください」「はい。百円です。一つですね。百円です」「あまいいりんですよ。ありがとうございます。ありがとうございました」

のような一往復半以上の会話を心がけたい（これらのことは、練習段階でしっかりと経験させておく）。よいやりとりをしている場面を見かけたら、十分にほめて、全体に広めるとよい。

子どもたちの学習意欲を大切に、生き生きとした学習活動にしたい。



楽しく「おみせやさんごっこ」に取り組む子どもたち。

■めあての確認をする（十分）

前時で使用したワークシート（学習指導書一下p.117に掲載されているもの）を振り返る。

【めあての例】

はなしかた（おきやく）

- ・ていねいなことは、はなす。
- ・なにをいくつかうか、はつきりとはなす。……など。

ききかた（みせのひと）

- ・わからないことは、ていねいなことばで、たずねかえしてきく。
- ・うなずいたり、たしかめたりしてきく。……など。

前時に模造紙にまとめたものを使って、めあての確認をする。よい。活動後、ワークシートの後半に「おみせやさんごっこ」の振り返りを書くことを予告しておく。

■おみせやさんの場を設定する

【活動場所 設定の工夫】

店は、部屋の周りにつくり、真ん中を広く空けて買い物しやすくする（下図参照）。

【その他】

売る人と買う人を区別するために、店の人はバンダナ等をつけると、なりきるることができる。

■活動を振り返る（十分）

- ・めあてについて振り返り、ワークシートに記入する。
- ・感想を発表する。